



エッセイ

はっぴなで旅便り

「今日もぷらぷら」⑩

『熱く暖かい函館の冬景色』



文月 齊 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか？
今年も新しい一年が始まった。年末の忙しさにかまけて正月飾り一つない僕の部屋
だけど、一日中放送される漫才番組や、シャッターが下りたまの静かな商店街の光
景にそれなりに正月気分は味わえてるよ。都会あたりじゃ元日早々から街に繰り出し、
一抱えもある福袋を買い求めるのだから、僕の居る函館の旧市街では道行く人の
姿もほとんどなく、たまに通るのは年賀状を配る郵便配達員くらいのもの。正月三が
日は家族と自宅でのんびり過ごすという、昔と変わらぬ正月らしい時間が流れているよ。
その郵便屋さんがいささきやって来て、立派なおせちと君が写る年賀状を置いて
いった。まあ、今年もまた随分大量におせちを作ったものだね。僕に分まで食べたか
ら太った、なんて妙な言いがかりをつけられそうだけど、「一年の計は元日にあり」、
今から計画を立てておかないと、春物のスーツを着る頃にはいつものように慌ててダ
イエットする破目になるぞ。
君の自慢のおせちは食べられなかったけど、僕もこっちはおせちをいただいた。
ベイエリアにあるオリエンタルキッチンという小さなカフェで、毎年元旦に食事に行
くと小さなおせちを出してくれるんだ。もう何年前になるかな、年の瀬に越してきて、
食事でもしようと彷徨っていた時に辿り着いたお店でね、大晦日でほとんどの店が休
みだったので本当に助かった。何を食べようかメニューを眺めている僕に「サービス
です」とマスターが出してくれた小さな年越しそばの美味しかったこと。正月も元日
から営業してるといふので行ってみたいところ、「明けましておめでとうございませう」と
出してくれたのがミニお節だったってわけさ。初めて訪れた街で受けた思わぬもて
なしは、うっかり涙ぐみそうになるほど温かかったなあ。冬は氷点下の寒い日が続く
函館だけど、人の温かさをとくに感じる季節だよ。
そうそう、この北国ならではの寒さと雪のせいだろうね、函館ではお正月に凧揚げ
やコマ回しで遊ぶ子供の姿をほとんど見かけない。今どきはテレビゲームで遊ぶのだ
ろうけど、その昔、正月遊びの花形といえばカルタ遊びだったそうだよ。このカルタ
がまたちよつと変わっててね、紙ではなく厚さ1センチほどの木でできているんだ。
読み方も特徴的で、まず、一つ前に読んだ札の下の句を読み、続いてこれから取る札
の下の句を読むという「下の句読み」という北海道特有の方法で読むんだ。カルタを
取る人も3人づつに分かれて団体戦で行うのが公式ルールで、調べてみると「全日本
下の句歌留多協会」なんて団体も存在した。小学校によってはこの「下の句カルタ」
に力を入れている学校もあってね、秋の終わり頃から下の句カルタの全道大会を目指
して特訓する学校もあるそうだよ。
たかがカルタ、されどカルタ。一対一で競う一般的なカルタ取りとは違って、チー
ムで競う北海道カルタは3人のチームワークも勝敗の要因になってくる。応援する方
もついつい熱が入ってしまつてね、外の寒さなんて忘れてしまうほど熱い戦いが繰り
広げられるんだ。人は温かいし、熱い情熱でカルタに取り組む人たちに囲まれれば、
寒さなんかこれっぽっちも感じないよ。君も寒くなったらこっちに来るといい。
それじゃまた。